

FY2022
(2022年11月期)

通期決算説明資料

アルテック株式会社

(証券コード：9972)
2023年2月13日

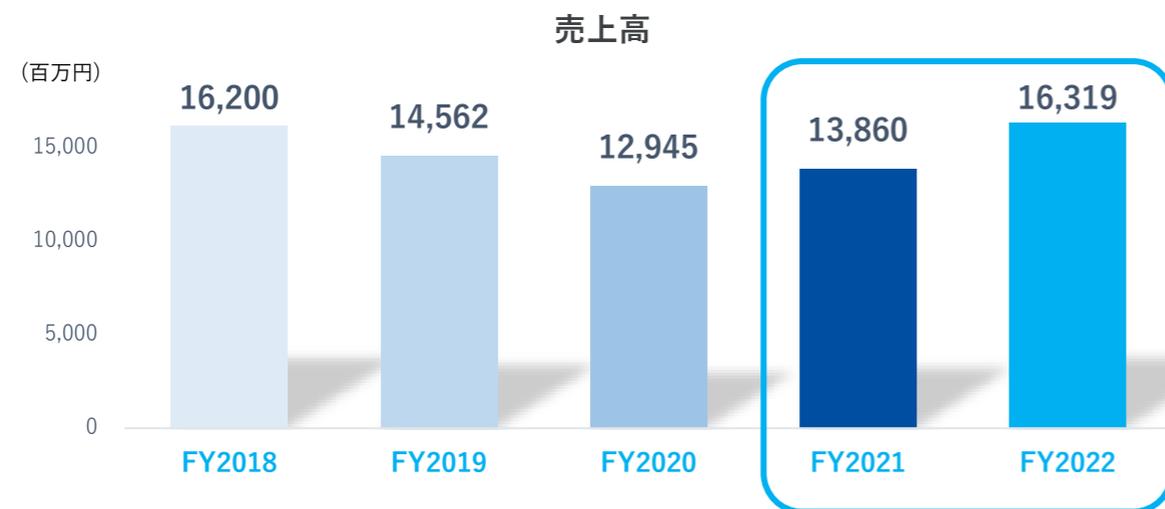
- FY2022 連結業績
- FY2022 セグメント別業績
- FY2022 連結財政状況
- FY2023 連結業績予想
- FY2023 成長戦略

FY2022 連結業績

FY2022 連結業績 (2021年12月1日～2022年11月30日)

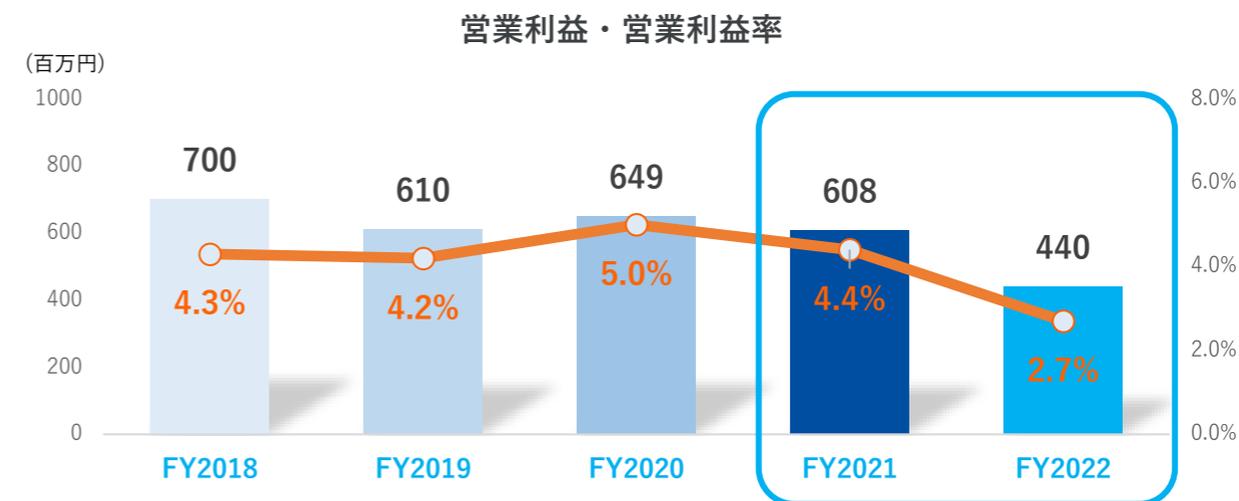
売上高

16,319 百万円 (前期 **13,860** 百万円)



営業利益

440 百万円 (前期 **608** 百万円)



連結業績推移

(単位：百万円)

	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022
売上高	16,200	14,562	12,945	13,860	16,319
営業利益	700	610	649	608	440
営業利益率	4.3%	4.2%	5.0%	4.4%	2.7%
経常利益	721	587	700	654	476
経常利益率	4.5%	4.0%	5.4%	4.7%	2.9%
当期純利益	583	509	595	542	402
EPS	34.02円	30.11円	37.56円	35.96円	28.22円

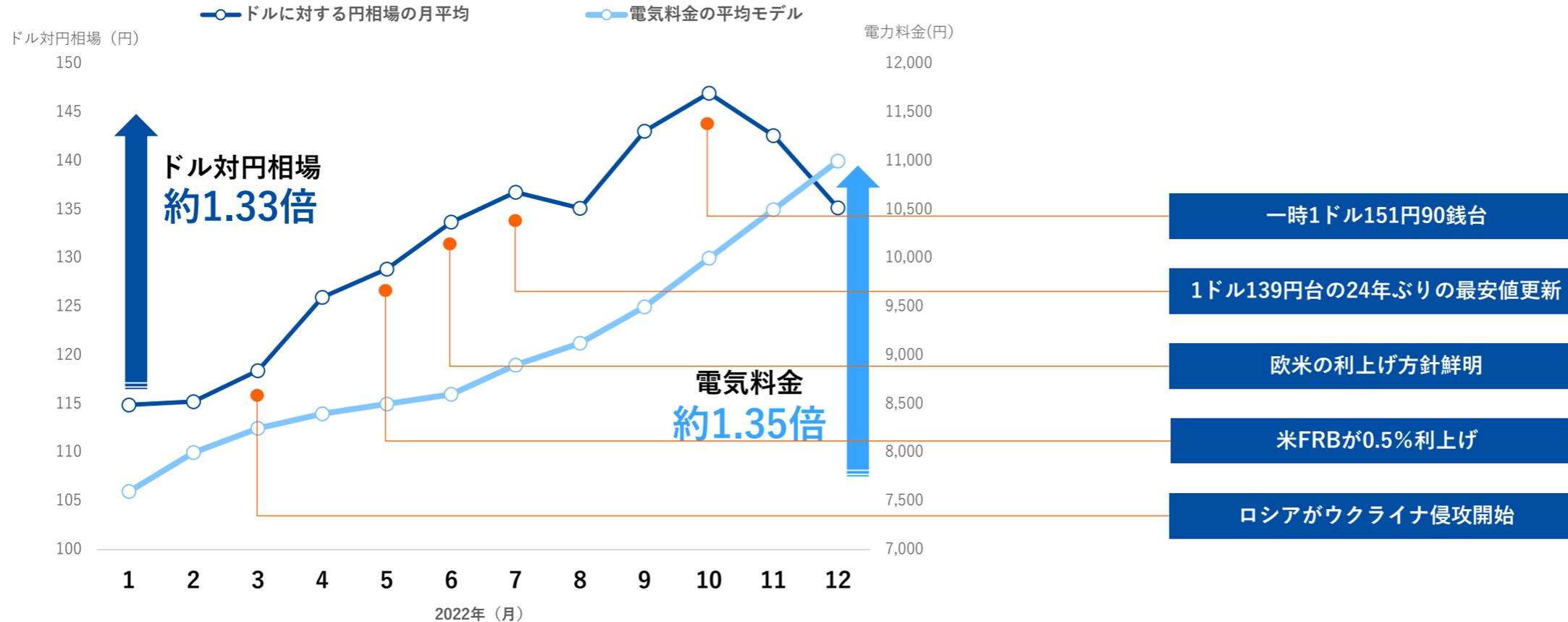
【経済環境】

急激な円安進行や物価上昇、ロシアのウクライナへの侵攻に起因するエネルギー価格の上昇、中国経済の減速等の下振れリスクが顕在化。

FY2022 連結業績 (2021年12月1日～2022年11月30日)

当連結会計年度における不透明な経済環境

電力料金(平均モデル)の推移・ドル対円相場の推移



出典：TEPCO電力料金の平均モデル 出典：七十七銀行米ドル対円相場一覧表、Yahooニュース

FY2022 セグメント別業績

FY2022 商社事業の業績 (2021年12月1日～2022年11月30日)

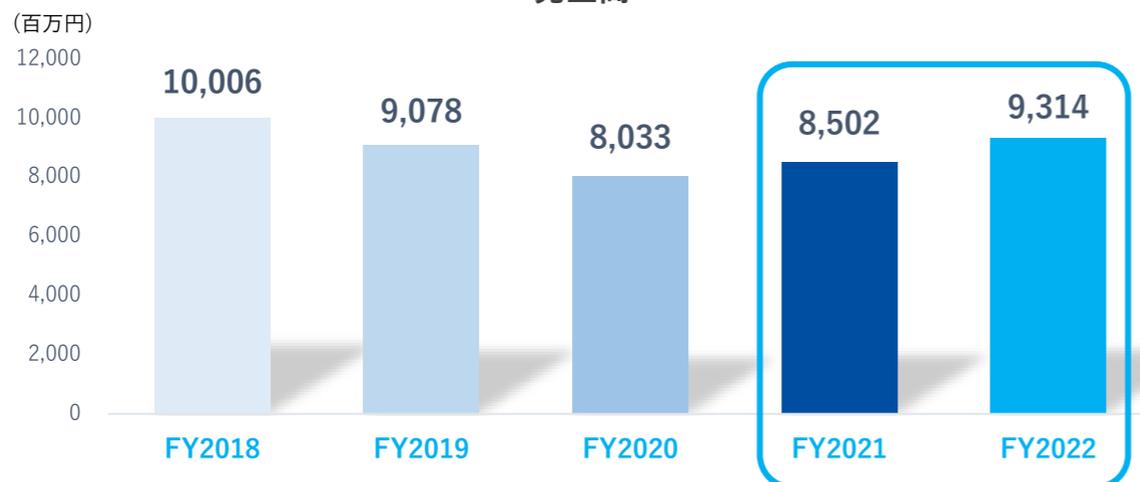
売上高

9,314 百万円 (前期 8,502 百万円)

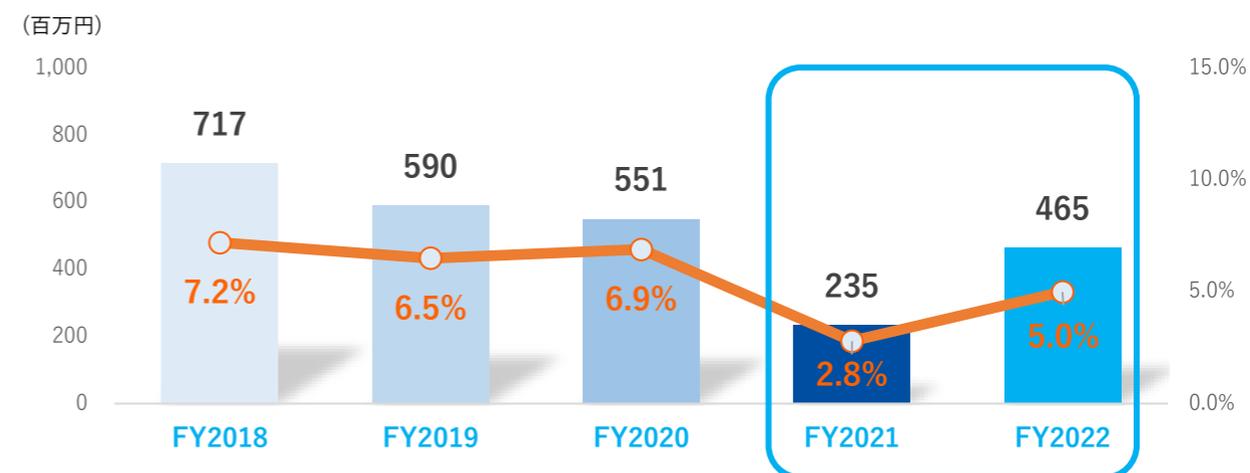
セグメント利益

465 百万円 (前期 235 百万円)

売上高



セグメント利益・利益率



【主な要因】

ミネラルウォーター製造ライン、ガラス強化炉装置、RFIDタグ製造装置等の検収が完了したほか、コストコントロールに努めたことにより増収増益。

- 売上高 9,314百万円、前期と比べ 812百万円増
- セグメント利益 465百万円、前期と比べ 230百万円増

商社事業の業績推移

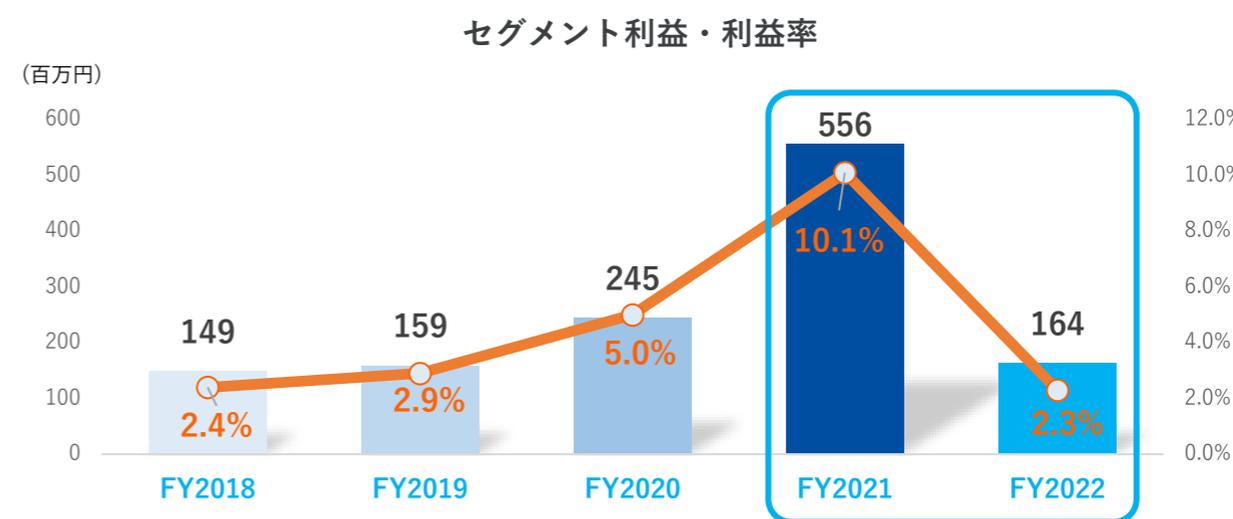
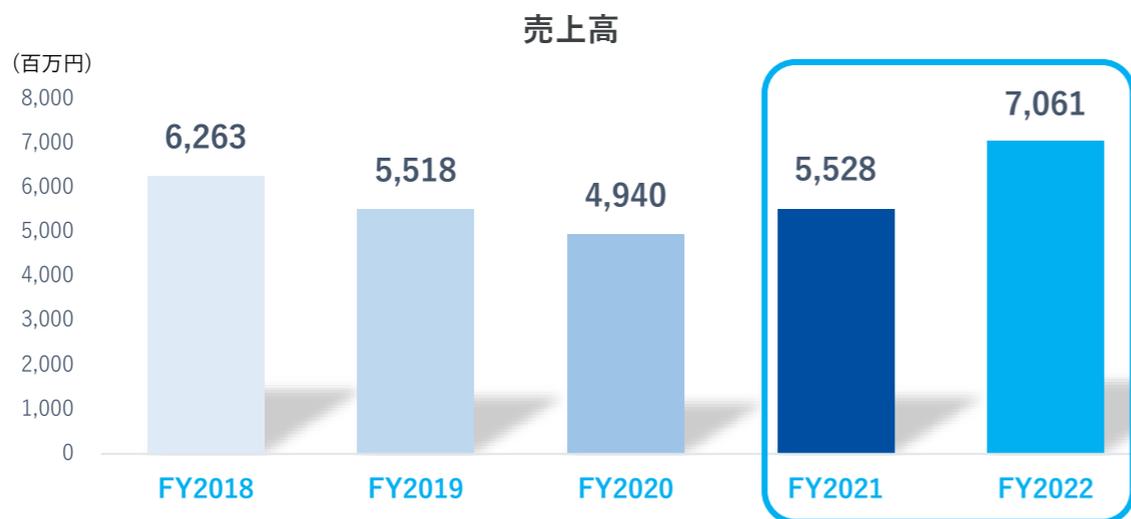
(単位：百万円)

	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022
売上高	10,006	9,078	8,033	8,502	9,314
セグメント利益	717	590	551	235	465
セグメント利益率	7.2 %	6.5 %	6.9 %	2.8 %	5.0 %

FY2022 プリフォーム事業の業績概要 (2021年12月1日～2022年11月30日)

売上高
7,061 百万円 (前期 5,528 百万円)

セグメント利益
164 百万円 (前期 556 百万円)



【主な要因】

飲料用プリフォームの販売数量の増加等により増収となりましたが、原材料価格の上昇等により減益。

- 売上高 7,061百万円、前期と比べて 1,532百万円増
- セグメント利益 164百万円、前期と比べて 392百万円減

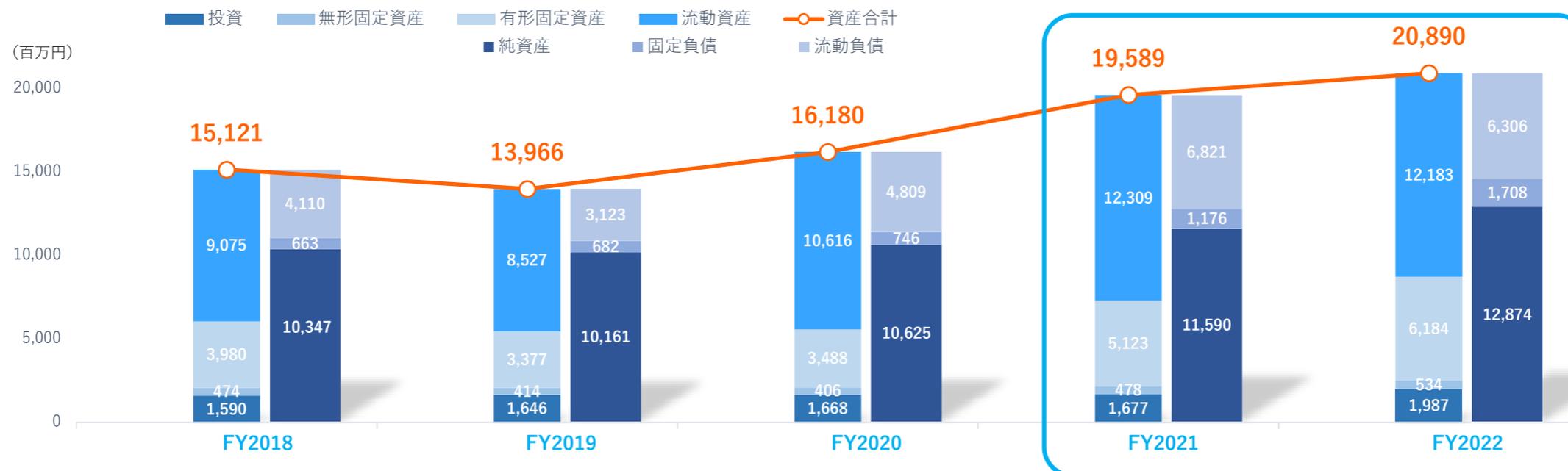
プリフォーム事業の業績推移

(単位：百万円)

	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022
売上高	6,263	5,518	4,940	5,528	7,061
セグメント利益	149	159	245	556	164
セグメント利益率	2.4 %	2.9 %	5.0 %	10.1 %	2.3 %

FY2022 連結財政状況

FY2022 要約貸借対照表

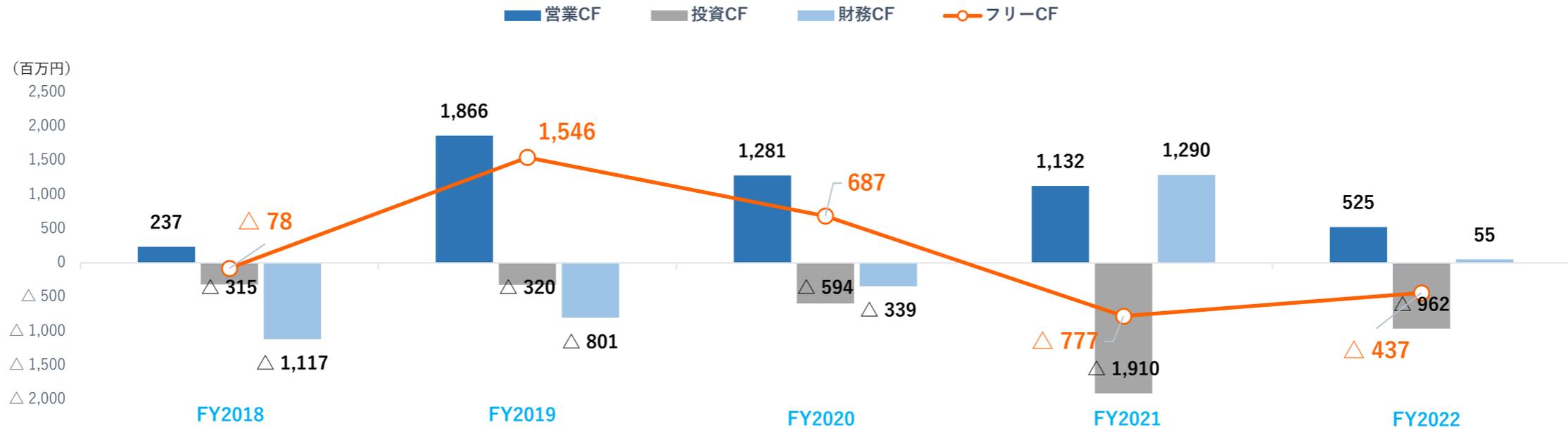


連結貸借対照表

(単位：百万円)

	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	増減額	主な増減要因
流動資産	9,075	8,527	10,616	12,309	12,183	△ 125	現金及び預金：△104 商品及び製品：△410 受取手形及び売掛金：+391
有形固定資産	3,980	3,377	3,488	5,123	6,184	+1,060	
無形固定資産	474	414	406	478	534	+55	
投資（その他資産）	1,590	1,646	1,668	1,677	1,987	+309	
資産合計	15,121	13,966	16,180	19,589	20,890	+1,301	
流動負債	4,110	3,123	4,809	6,821	6,306	△ 515	未払金：+147 未払費用：+82 前受金：△924
固定負債	663	682	746	1,176	1,708	+532	長期借入金：+259 リース債務：+257
純資産	10,347	10,161	10,625	11,590	12,874	+1,284	自己株式取得：△299 利益剰余金：+358 為替換算調整勘定：+1,287
負債純資産合計	15,121	13,966	16,180	19,589	20,890	+1,301	

FY2022 連結キャッシュ・フロー状況

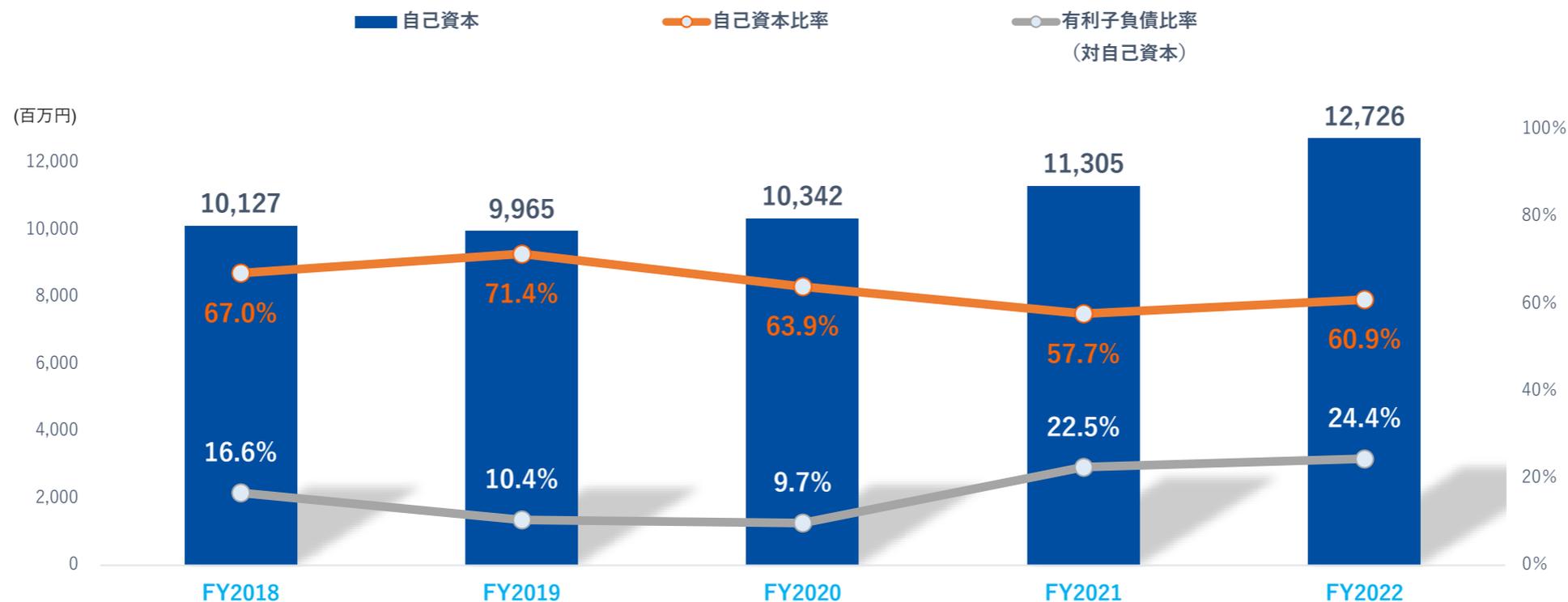


連結キャッシュフローの状況

(単位：百万円)

	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022
営業活動によるキャッシュフロー	237	1,866	1,281	1,132	525
投資活動によるキャッシュフロー	△ 315	△ 320	△ 594	△ 1,910	△ 962
フリー・キャッシュ・フロー	△ 78	1,546	687	△ 777	△ 437
財務活動によるキャッシュフロー	△ 1,117	△ 801	△ 339	1,290	55
現金及び現金同等物の期末残高	2,766	3,444	3,815	4,187	4,074

FY2022 自己資本等の推移



自己資本等の推移

(単位：百万円)

	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022
自己資本	10,127	9,965	10,342	11,305	12,726
自己資本比率	67.0%	71.4%	63.9%	57.7%	60.9%
有利子負債比率 (対自己資本)	16.6%	10.4%	9.7%	22.5%	24.4%

FY2023 連結業績予想

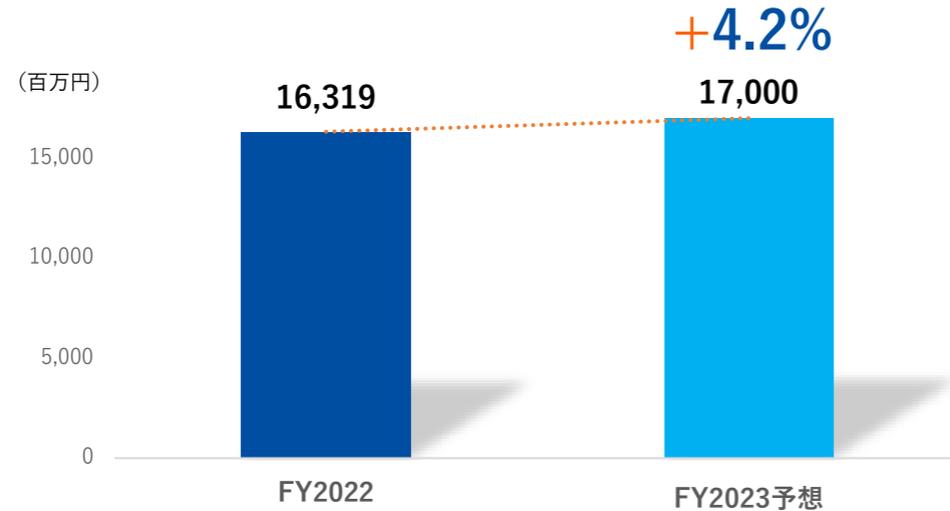
FY2023 連結業績予想

(2022年12月1日～2023年11月30日)

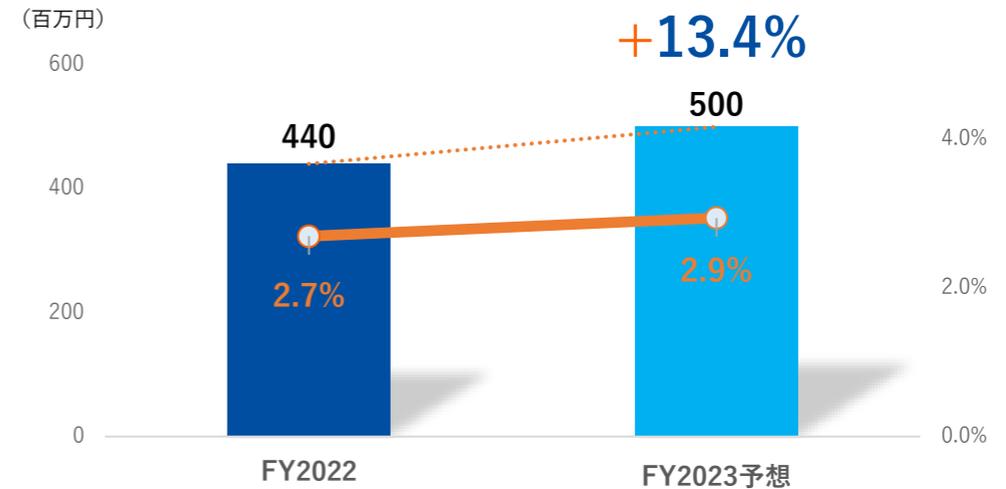
売上高
17,000 百万円
 前年同期比 (増減)
+4.2% (+680 百万円)

営業利益
500 百万円
 前年同期比 (増減)
+13.4% (+59 百万円)

売上高



営業利益・営業利益率

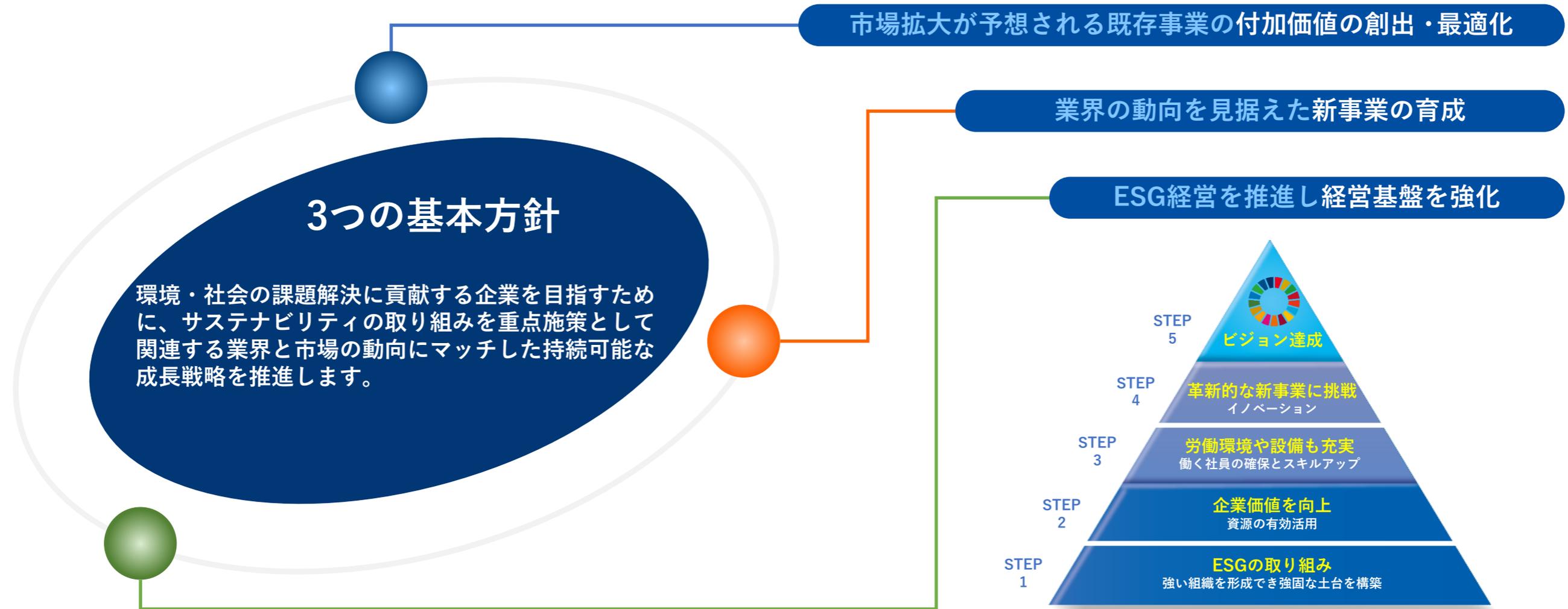


※なお、上記の業績予想は本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、今後の経済情勢や需要の変化等の様々な要因により、実際の業績結果とは大きく異なる可能性があります。

FY2023 成長戦略

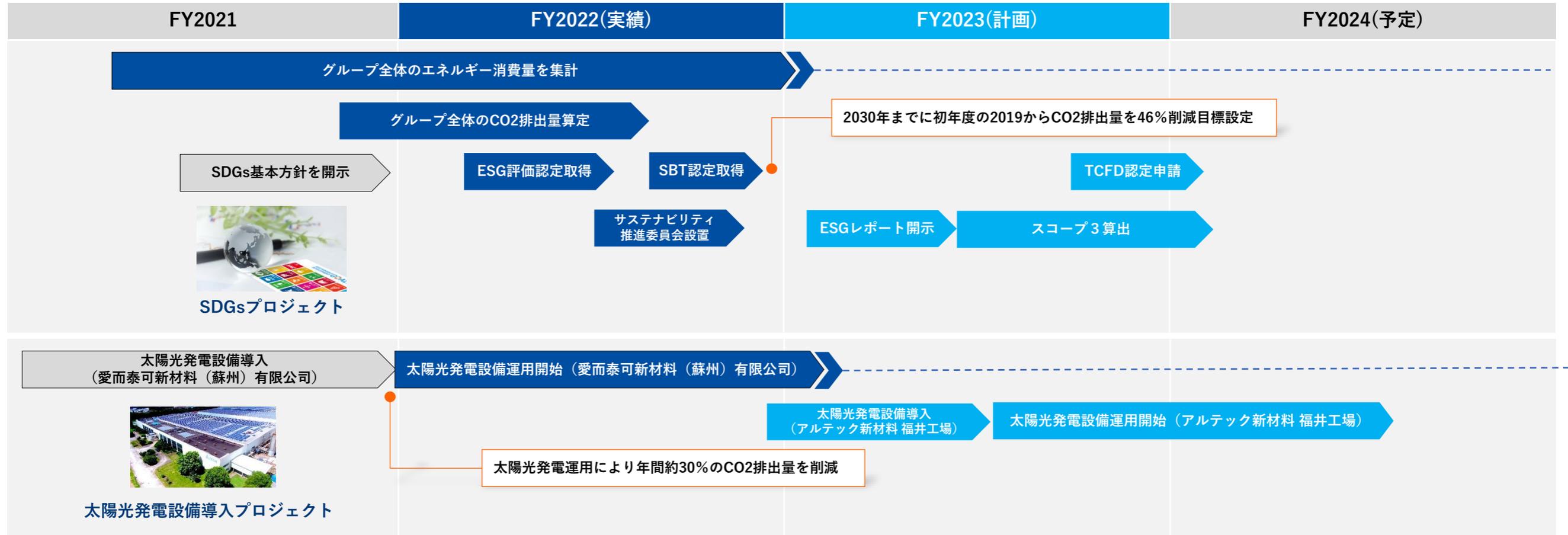
中期経営計画の基本方針

サステナビリティの取り組みをさらに強化し、サステナブルな商品や技術の提案を促進して企業価値向上と社会課題解決を両立するESG経営を推進し、「世の中の優れた商品を提供しモノづくりの支援を通じて社会に貢献する」というビジョンの達成を目指します。



ESG経営を推進し経営基盤を強化

サステナビリティ（ESG要素を含む中長期的な持続可能性）を巡る課題への取組み



東証市場区分再編成 2022年4月

コーポレートガバナンスコード改訂 2021年6月11日 サステナビリティが重要テーマ

- 取締役会の機能発揮
- 企業の中核人材における多様性（ダイバーシティ）の確保
- サステナビリティ課題への取組み

ESG経営を推進し経営基盤を強化

2030年に向けた温室効果ガス排出量削減目標を設定

サプライチェーン全体、事業にまつわるあらゆる温室効果ガス排出量を削減することが求められています。

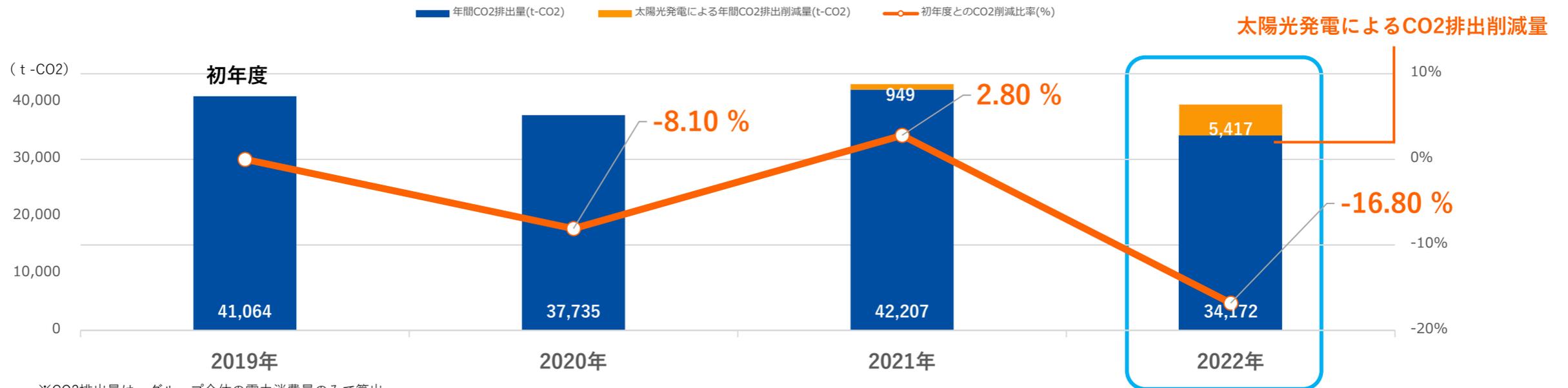
アルテックグループは、国際的イニシアチブ「SBTi (Science Based Targets initiative)」に参加しており、2030年までの温室効果ガス削減目標を2019年比で46%減 (1.5°C目標) と設定しました。

温室効果ガスCO2排出量削減目標

スコープ1・2	<ul style="list-style-type: none"> ● 2030年までに2019年の基礎年から46%削減 ● 2050年までに再エネ100%を達成
スコープ3	<ul style="list-style-type: none"> ● スコープ3の排出量を測定して削減することを約束



グループ全体の年間CO2排出量推移

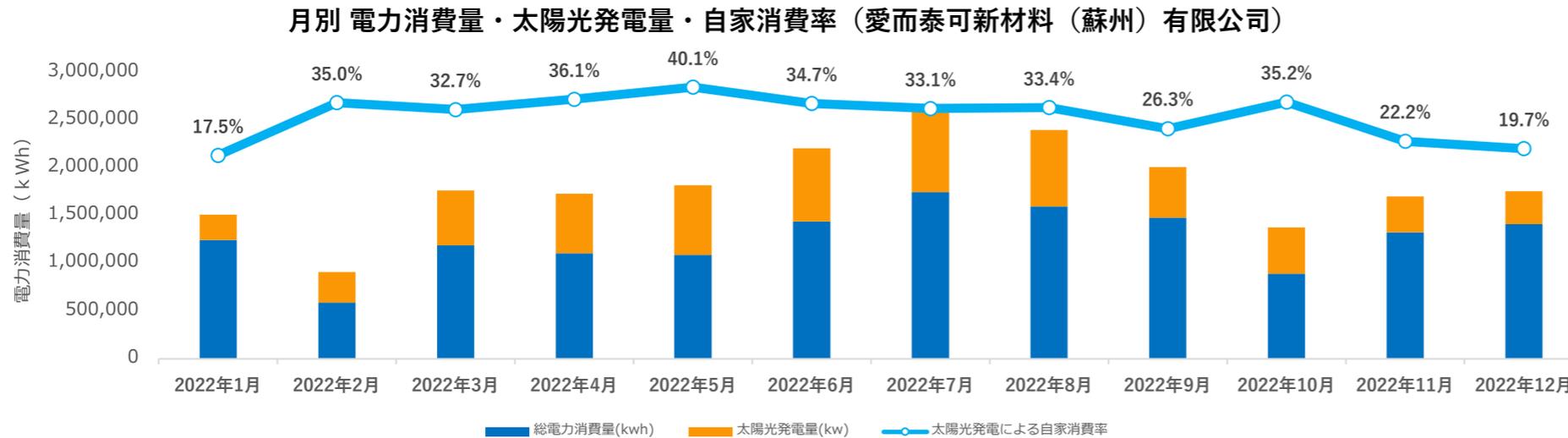


※CO2排出量は、グループ全体の電力消費量のみで算出

ESG経営を推進し経営基盤を強化

太陽光発電設備の積極的な導入により化石燃料由来の発電による電気の消費量を年間約28%削減

2021年10月、アルテックグループである愛而泰可新材料（蘇州）有限公司のプリフォーム製造工場の屋根約37,500㎡に太陽光パネル15,000枚を設置し6メガワットの太陽光発電システムを導入。年間で約6.7ギガワットを発電し総電力消費量の約28%を自家消費。



蘇州工場に設置された太陽光パネル

2023年、アルテック新材料（福井）の工場屋根に太陽光発電設備を設置予定

アルテック国内グループであるアルテック新材料株式会社の工場屋根に太陽光パネル1,200枚を設置し、約450キロワットの太陽光発電設備を設置を計画。



太陽光パネル設置予定の福井工場

業界の動向を見据えた新事業の育成

内外の資源の活用による事業化の推進



業界の動向を見据えた新事業の育成

PETボトルの循環型社会の実現を福井から発信

大塚製薬・アルテック・ジャパンパワーボトラーズの3社で事業提携協定を締結。

当社は、大塚製薬株式会社・株式会社ジャパンパワーボトラーズの3社で「ボトルtoボトル水平リサイクル」を推進し持続可能な社会を実現することを目的とした包括的な事業提携協定を締結。



ボトルtoボトル水平リサイクル



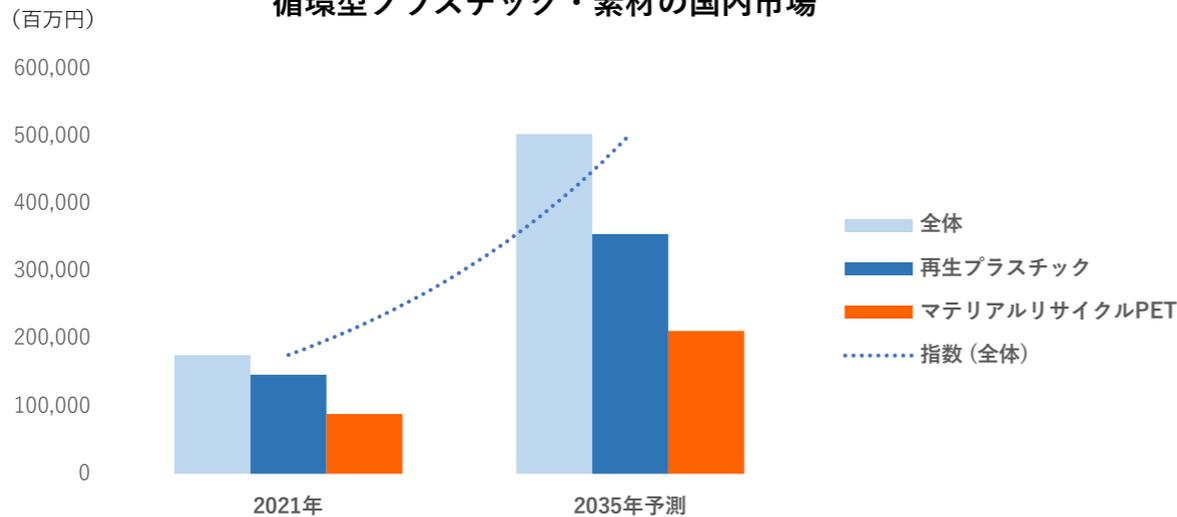
業界の動向を見据えた新事業の育成

再生プラスチックの国内市場規模予測

MRプラスチックがけん引 MR-PET（マテリアルリサイクルPET） 2,120億円（2.4倍）
 飲料メーカーがボトル to ボトルを推進しており、市場拡大

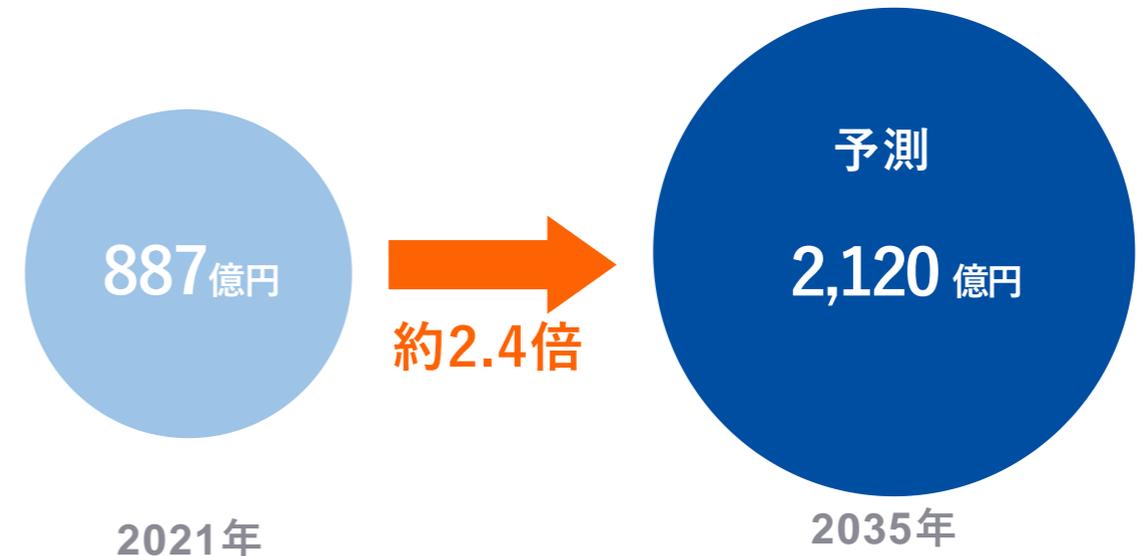
飲料メーカーや消費財メーカーなどの大手企業は、2030年までにプラスチックパッケージのリサイクル率を50%以上にすることを約束しています。これに伴い、食品グレード認証を受けた再生材の需要が高まると予想されます。

循環型プラスチック・素材の国内市場



参照：株式会社 富士経済 循環型プラスチック・素材の国内市場

マテリアルPETリサイクルの国内市場予測



参照：株式会社 富士経済 循環型プラスチック・素材の国内市場

業界の動向を見据えた新事業の育成

欧州で活躍する小型ノンステップEVバスの国内参入を見据えた市場調査開始

トルコの商用車メーカーKARSAN社と協力して、環境問題に積極的に取り組むジェイアールバス関東株式会社とパートナーシップを組み、日本仕様のEVバスの輸入販売に向け共同開発を行っております。



2022年11月22日に幕張メッセ野外展示場にて開催された「2022 第8回 バステク in 首都圏」に KARSAN社製 小型電気バス「e-JEST」を出展

■ 利便性と快適性を実現した装備



■ 小型EVバス「e-JEST」は、環境・社会・経済の持続可能性に貢献



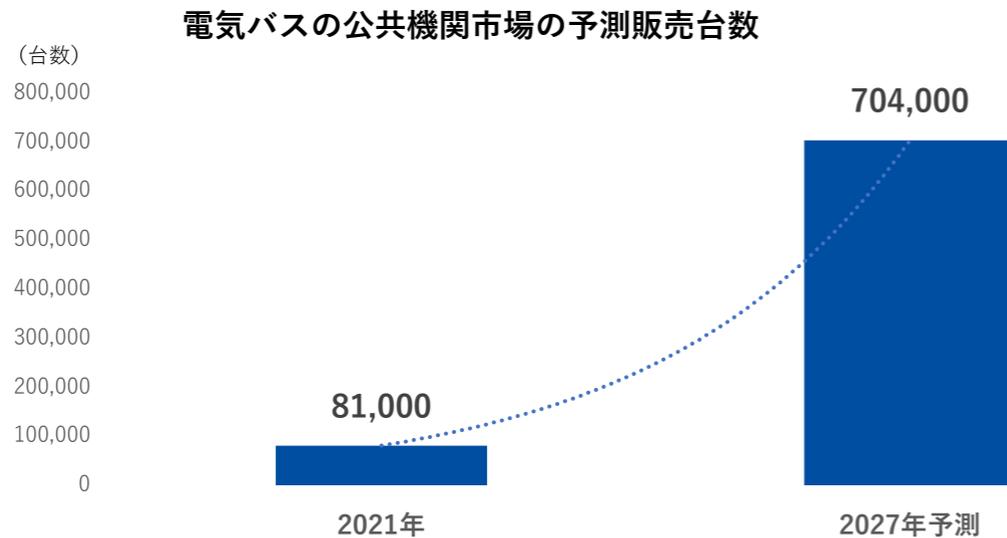
業界の動向を見据えた新事業の育成

電気バスの世界市場規模予測

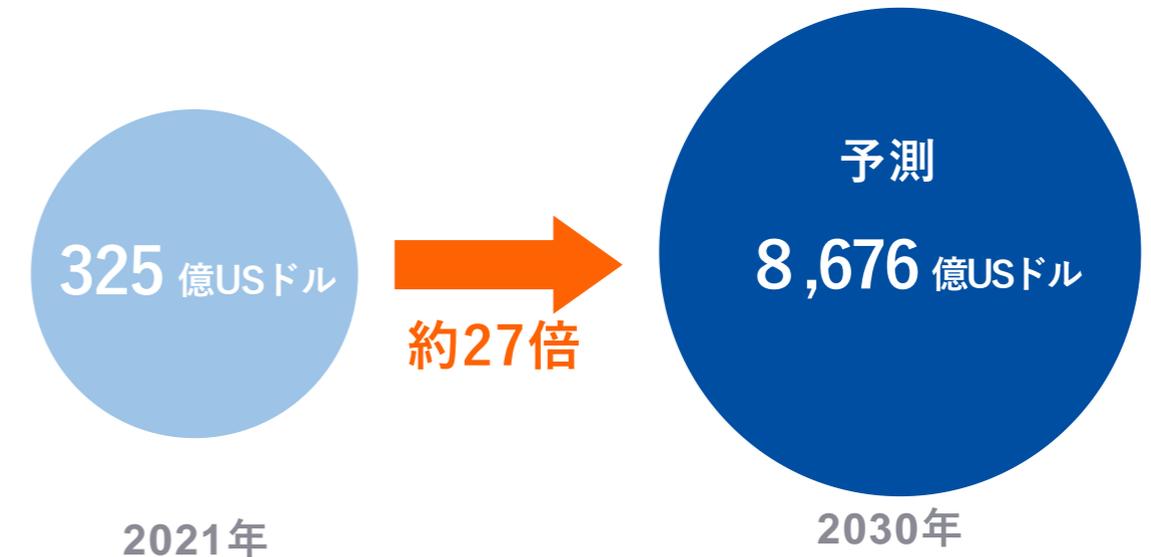
アジア太平洋地域は、公共用電気バスのセグメントが市場を支配し、2021年には325億米ドルとなりました。2030年には8,676億米ドルに達すると予測されます。

中国、日本、韓国、インドなどで電気バスの需要が高いことから、アジア太平洋地域は、最も急速に市場が成長すると予測されています。公共市場のセグメントの成長は、輸送需要の増加、大気汚染、騒音を抑制するために政府がいくつかのCO2排出量削減を導入し、化石燃料への依存度を減らすことに起因しています。

世界の電気バスの市場規模と予測



参照：株式会社グローバルインフォメーション 電気バスの世界市場（～2027年）



参照：グランドビューリサーチ社 Electric Bus Market Analysis and Segment Forecast to 2030

業界の動向を見据えた新事業の育成

最新の設備を備えた体験型エクスペリエンスショールーム新設

エンタープライズ、教育その他の様々な市場で、テレワークとオフィスのハイブリッドな環境と新しい仕組みに革命をもたらすハードウェアおよびソフトウェアソリューションを備えたアメリカのクレストロン社の会議ソリューションを販売いたします。



分散された従業員を簡単に一堂に会する事ができるようになります。



イメージ：Crestron Experience Centers (Singapore)



スピーカートラッキング



グループフレーミング



プレゼンタートラッキング



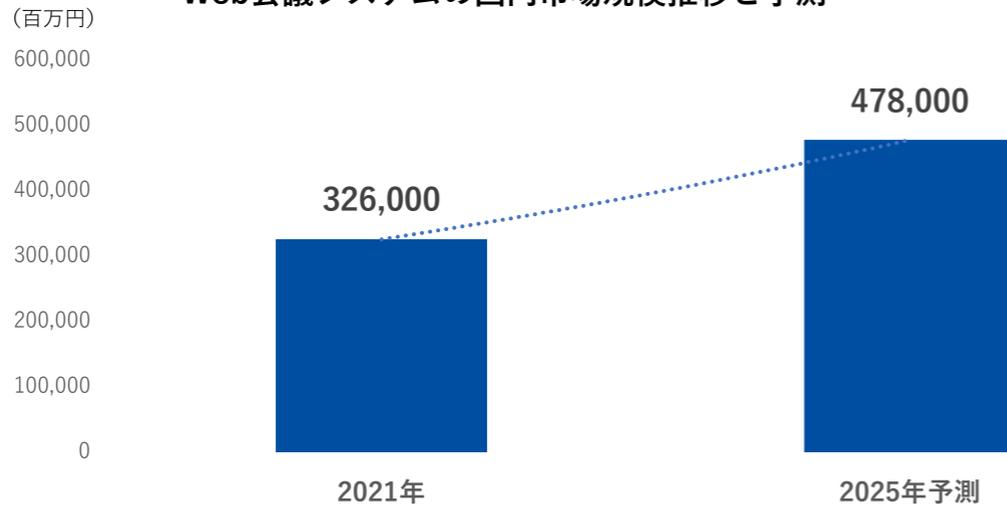
業界の動向を見据えた新事業の育成

ビデオ会議システムの世界市場規模予測

ビデオ会議の市場規模は、2021年の92億米ドルからCAGR19.7%で成長し、2026年には225億米ドルに達すると予測されています。

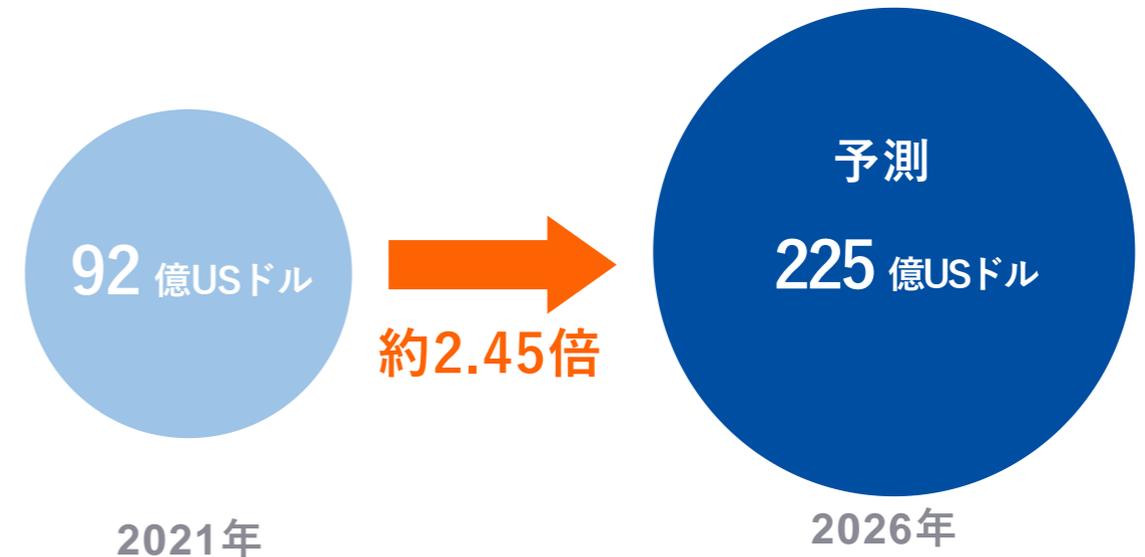
ウェビナーやオンラインイベントでの利用が増加し、今後も市場は継続して拡大する見込み。コロナ禍が収束した後も、一定数の企業では在宅勤務の定着が予想されるほか、勤務場所にかかわらず打ち合わせなどでWeb会議の活用が引き続き期待できるため、伸びは鈍化するものの市場の成長が見込まれます。

Web会議システムの国内市場規模推移と予測



参照：ITRマーケットView：コラボレーション2021

Web会議システムの世界市場規模予測



参照：Secondary Research, Expert interviews, and MarketsandMarkets Analysis

市場拡大が予想される既存事業の付加価値の創出・最適化

市場環境の変化やお客様のニーズの多様化に対応

脱プラスチックとリサイクルがテーマとなる昨今、省プラ化、軽量化、分別リサイクルという課題に対して意欲的に取り組む革新的な技術の商品の取り扱いを促進します。

環境に配慮したリサイクル可能なサステナブルパッケージ商品



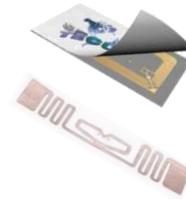
紙ボトル

印刷・包装



ICカード・RFID

RFID タグ



無人自律走行型車両
開発プラットフォーム



自律走行フォーク型
搬送ロボット

ポリマープロセス

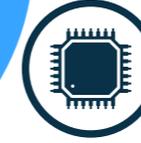


物流ロボット



水素タンク用
フィラメントワインダー

PETボトル・飲料



PE・ナノテクノロジー



多品種・小ロット
ブロー成形機



高エネルギー
パルス照射装置

ライフサイエンス



3Dプリンター



水処理・ろ過装置



パウダーベッドフュージョン方式
3Dプリンター

ALTECH

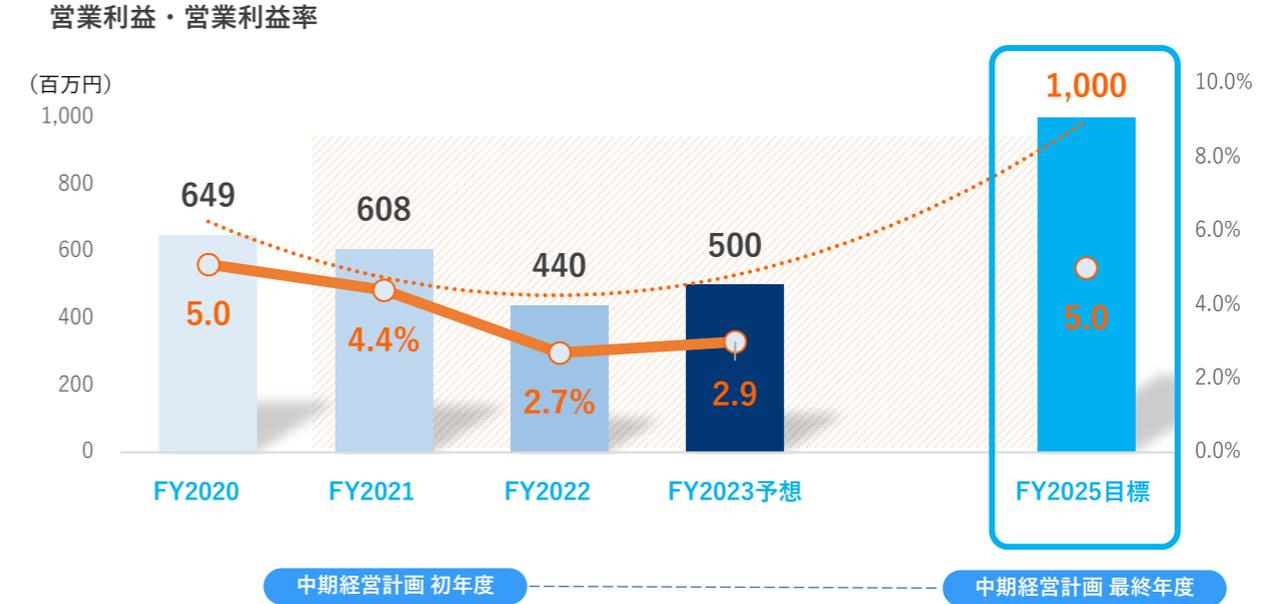
中期経営計画の経営数値目標と進捗

売上高
20,000 百万円

営業利益
1,000 百万円

営業利益率
5.0 % 以上

ROE
8.0 % 以上



【目標達成に向けて】

- 次の成長を見据えた先行投資
- エンジニア等の増強でサービス向上・事業拡張
- 製品品質の安定化
- ビジネスパートナーの活用
- ターゲット顧客からの受注拡大

営業利益率・ROE推移予想

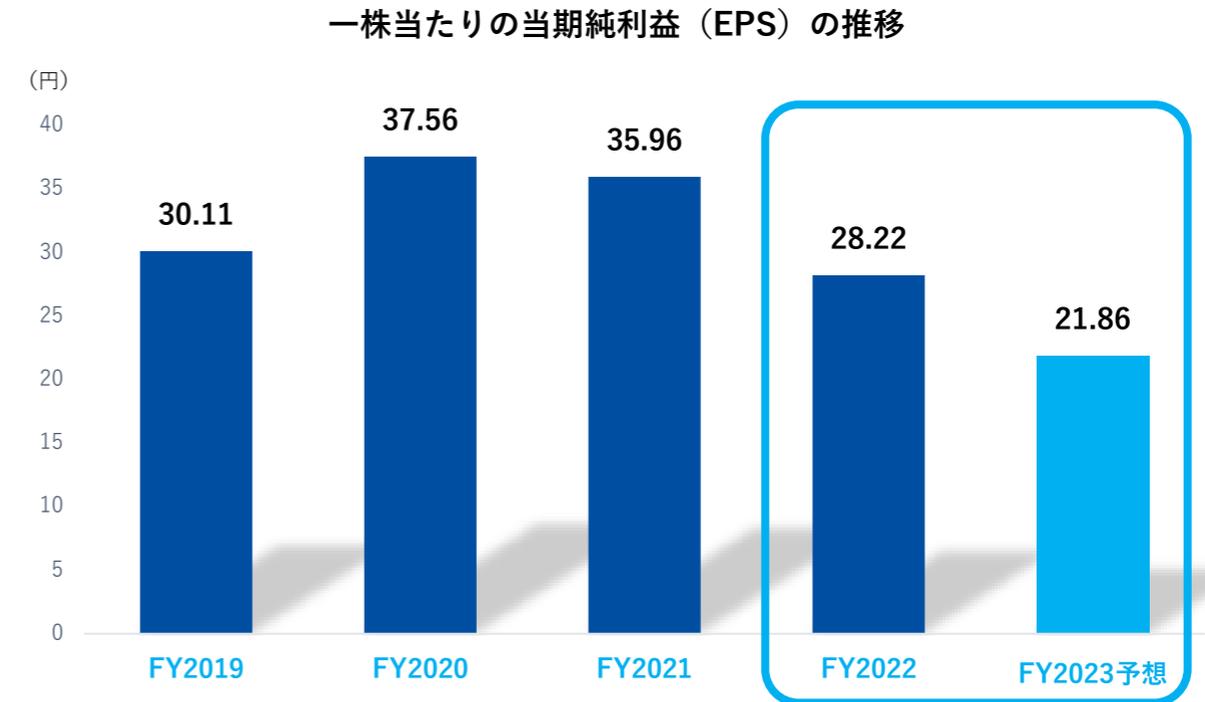
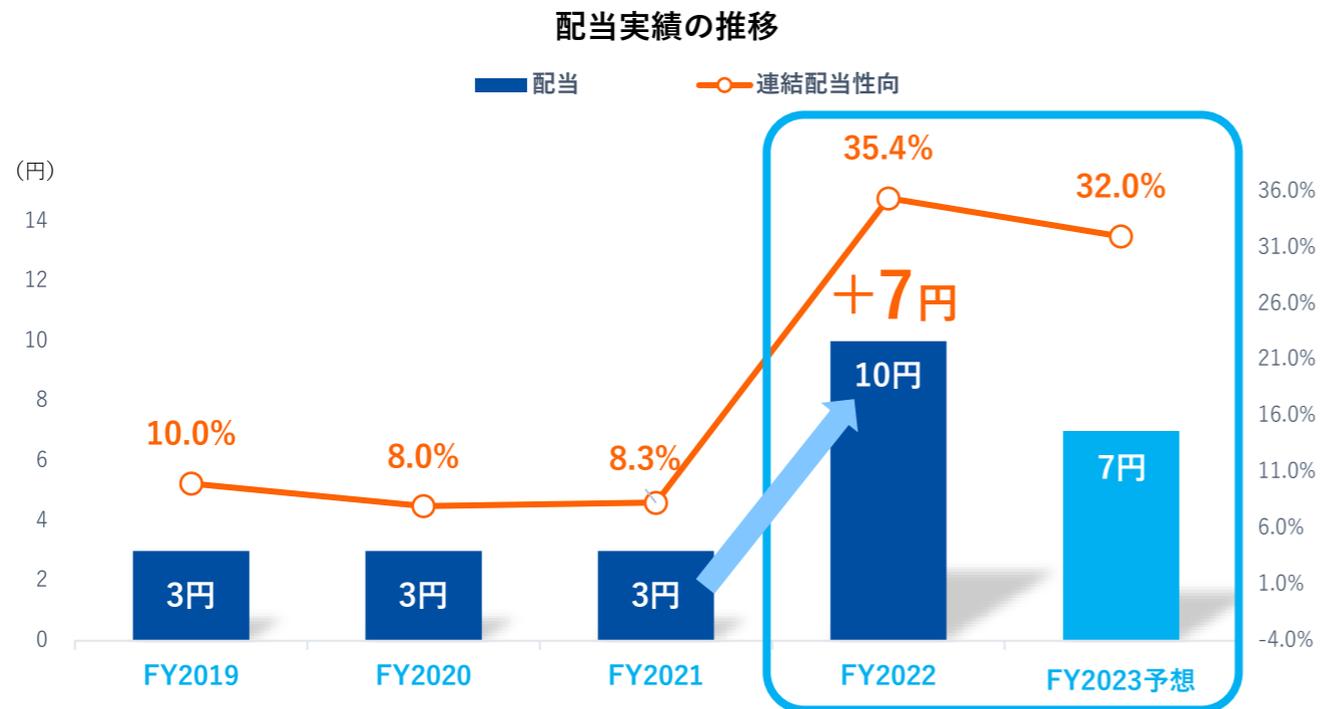
	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023予想	FY2025目標
営業利益率	5.0%	4.4%	2.7%	2.9%	5.0%以上
ROE	5.9%	5.0%	3.4%	—	8.0%以上

株主還元（配当・連結配当性向・EPS）

株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題の一つと位置付け、企業業績および資本効率の向上に努め株主還元の更なる充実を図ってまいります。

- 利益の配分は、経営環境の変化や将来の事業展開に備えて財務体質の強化に留意。
- 剰余金の配当は、連結および単体における利益剰余金の水準を勘案した安定配当を実施。
- **連結配当性向は、30%以上を目標。**

	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023予想
配当	3円	3円	3円	10円	7円

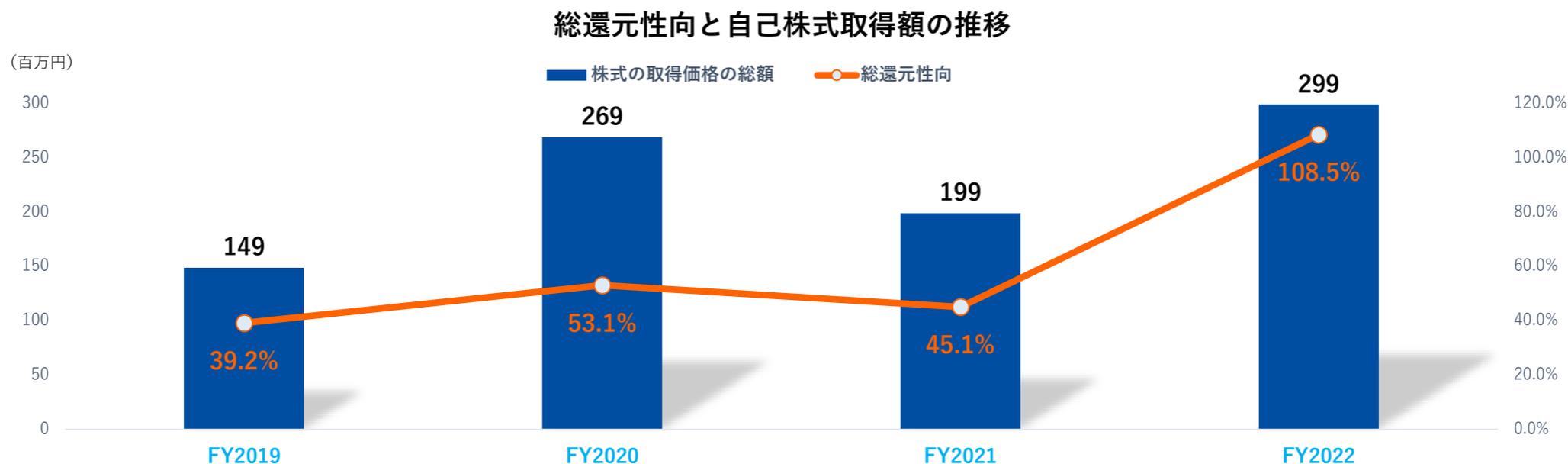


株主還元（総還元性向）

資本効率の向上等を目的とした自己株式の取得につきましては、投資余力および利益剰余金の水準等を総合的に勘案し、連結総還元性向も意識した株主還元 に努めてまいります。なお、取得した自己株式につきましては、用途が見込まれない状態が生じた場合には、適切な時期に消却を実施することといたします。

自己株式取得の実績

	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022
取得した株式の総数	672,500 株	1,113,800 株	639,900 株	1,087,600 株
株式の取得価格の総額	149百万円	269百万円	199百万円	299百万円





※将来に関する記述等についてのご注意

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づき、当社が判断した内容であり、潜在的リスクおよび不確実性が含まれております。これらの目標や予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。